

兵庫県における水素モビリティの普及促進 ～関西初を兵庫から～

令和8年2月27日（金）

令和7年度「関西水素サプライチェーン構想実現プラットフォーム」
水素エネルギーセミナー

兵庫県環境部水大気課

1 兵庫県の水素普及のポテンシャル

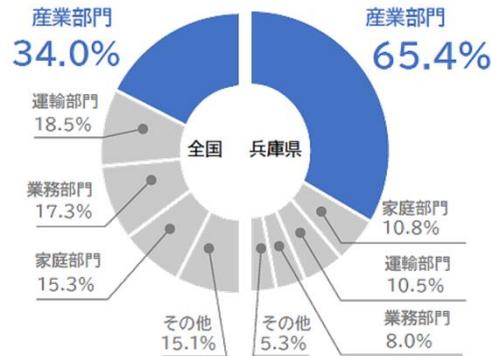
(1) 重厚長大産業の集積

兵庫県の温室効果ガス排出量のうち
約65%が産業部門からの排出

全国（34%）と比べ割合が多い



水素の潜在需要が大きい



温室効果ガス部門別排出量（R4年度）

(2) トップランナー企業等の集積

- ◆ 水素分野は、成長が見込まれる先端分野で関連産業のすそ野も広い
- ◆ 県内企業の積極的な挑戦に加え、高度な技術力を有する企業が多い
- ◆ 大学等での研究も盛ん



兵庫県立大学工学連携・研究推進機構
水素エネルギー共同研究センター

2 兵庫県の水素の取組（5本柱）

区分

I 水素サプライチェーンの構築

- ◆ 播磨臨海地域を中心とするサプライチェーンの構築

II 水素エネルギーの地産地消

- ◆ 淡路地域での余剰再エネを活用した水素製造と利活用の検討

III 水素関連産業の振興

- ◆ 水素関連投資の促進、県内中小企業の水素関連産業への参入支援

IV 水素モビリティの普及促進

- ◆ FCV・FCバス等の水素モビリティや水素ステーションの普及拡大

V 機運の醸成

- ◆ 県民・事業者への啓発

【自治体連携組織】

水素社会実装をめざす
兵庫県自治体連絡協議会
(R4.3設置→R4.10改組)

【構成】 兵庫県、神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、洲本市、加古川市、高砂市、南あわじ市、淡路市、猪名川町、播磨町 ※ 今後、適宜追加

【取組内容】 水素利活用の連絡調整、国への要望、機運醸成 等

【庁内組織】

ひょうご水素・脱炭素
社会推進本部
(R4.7設置)

【構成】 本部長：知事
副長：副知事
本部長等

【取組内容】 県施策の企画・調整、庁内の情報共有・連携

【産学官連携組織】

ひょうご水素社会推進会議
(R4.10設置)

【構成】

企業：岩谷産業、大阪ガス、大林組、川崎重工業、関西電力、神戸製鋼所、双日、東芝エネルギーシステムズ、トヨタ自動車、JR西日本、丸紅、三菱重工業

有識者：神戸大、兵庫県立大、NIRO 等
行政：国、兵庫県、県内関係市町

【取組内容】 水素利活用の拡大、水素関連産業の拡大、機運醸成 等

【産学官連携組織】

兵庫県水素ステーション整備促進協議会
(R6.9設置)

【構成】 企業(車両メーカー、インフラ事業者、物流事業者、バス事業者等)、研究機関、国、兵庫県、関係市町、経済団体 等

【取組内容】 水素ステーションの整備、運営支援、水素モビリティの普及促進 等

【産学官連携組織】

播磨臨海地域CNP推進協議会
(R4.7設置)

【構成】 企業、学識者、国、兵庫県、地元市、地元経済団体 等

【取組内容】 播磨臨海地域の脱炭素化の計画策定

3 燃料電池（FC）商用車の普及拡大

(1) R7年度の取組

関西で唯一「重点地域※」に選定（R7.5月）

① FC商用車の普及拡大を目指す

- ① R7年度から補助対象車両にFC小型トラックを追加
 （R6年度まではFC商用車としてバスのみ補助を実施）

FC小型トラック導入費：上限1,250万円/台

FC小型トラック導入費：約6千万円

国 約2,500万円	県 1,250万円	神戸市 1,250万円	ディーゼル車 導入費相当額 約1,000万円
---------------	--------------	----------------	------------------------------

② 併せて、水素燃料費の補助を創設

水素燃料費：上限500円/kg（上限96万円/年）

水素1kgの価格：税込1,650円（兵庫県内）

県 約500円	神戸市 約500円	軽油相当額 約650円
------------	--------------	----------------

⇒国、県、神戸市の補助金により、事業者負担額は、
 ディーゼル車を導入・運用する際の経費と同程度となる。

② 大規模水素ステーション（ST）の整備を目指す

- ◆ R7年度から補助対象に大規模水素STを追加（上限1億円/基）
 （R6年度までは小規模：1,250万円/基と中規模：5,000万円/基に補助を実施）

⇒コンソーシアム方式による大規模水素STの整備を検討

（事業者等とコンソーシアム設立に向けた協議や勉強会を実施）

（参考）※燃料電池商用車の導入促進に関する重点地域

1 選定地域（5地域6都県）

【東北】福島、【関東】東京・神奈川、【中部】愛知、【近畿】兵庫、【九州】福岡

2 重点地域に対する国からの集中的な支援

選定都県内の水素STに対しては、補助上限額の引き上げや補助メニュー拡充により他地域と差別化

関西初のFC小型トラック（2台）が神戸市内で導入
 （R7.12月）

【関西初FC小型トラックの出発式（R8.1.13 県庁にて）】



【県内の水素ST整備状況（R8.1.31現在）】

(2) R8年度の取組

大規模水素STの整備のため、水素需要（水素モビリティの導入車数）の積み上げが必要
 ⇒補助対象車両を更に拡充し、水素需要の拡大を促進

FCバス・トラック導入補助事業					
	①バス	②トラック		③水素燃料費 (R7～)	
補助メニュー	 FCバス (R2～)	 FC大型トラック (R8～)	 FC小型トラック (R7～)	 水素エンジントラック (R8～)	 © 岩谷産業株式会社
補助上限額	@12,500千円※1	@40,000千円	@12,500千円	@7,500千円※1	@500～600円/kg※2
R7年度	— (モデルチェンジ)	補助メニューなし	2台	補助メニューなし	2台
R8年度	次期モデル 2台	1台	— (モデルチェンジ)	1台	6台

※1 メーカーから導入費・改造費が未公表のため、今後、補助額が変更となる可能性あり

※2 R7年度以降、新たに県補助を受けて導入した車を対象
 (年間上限額 FCバス：1,260千円/台、FC大型トラック：2,400千円/台、FC小型トラック：960千円/台、水素エンジントラック：1,152千円/台)

4 淡路島でのグリーン水素の地産地消

- ◆ 様々な再エネと海水電解装置により
安価なグリーン水素を製造
- ◆ モビリティのみで水素需要の確保は困難
⇒ 窯業、水産加工業、観光業等の地場産業で
熱利用も含めた水素の利活用を検討
- ◆ R8年度にFS調査を実施、
R9年度以降に実証を目指す

